かぐらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 168 号

平成 29 年 10 月 31 日

編集　旭川医科大学
発行　教務部学生支援課

「医大祭の一コマ」　（写真撮影：医大祭実行委員会）

平成29年度入学式　学長挨拶
……学長　吉田　晃敏……２
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　板谷実朱花……10
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　高橋　采弓……10
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　中村　春野……11
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　成田　理貴……11
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　松原　寛太……12
旭川医科大学に入学して
……医学科第１学年　和田　悠里……12
旭川医科大学に編入して
……医学科第２学年　西川　瑛亮……13
旭川医科大学に入学して
……看護学科第１学年　佐﨑　美矩……13
旭川医科大学に入学して
……看護学科第１学年　鈴木　悠里……14
旭川医科大学に入学して
……看護学科第１学年　古川　美里……15
平成29年度入学式を挙行しました ……16
平成29年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました ……17
学生海外留学助成制度への謝意と海外への留学について ……医学科第３学年　柏木　陸……18
学生海外留学助成制度を利用して
～IFMSA基礎研究交換留学への参加報告～
……医学科第４学年　根来　柚衣……19
スコットランド・グラスゴー大学での臨床実習
……医学科第６学年　吉松　凛……20
医大祭2017が開催されました ……21
授業評価（平成28年度後期） ……22
教員の異動 ……45
今後のスケジュール ……45

平成29年度入学式
学 長 挨 拶

旭川医科大学　学長　吉　田　晃　敏

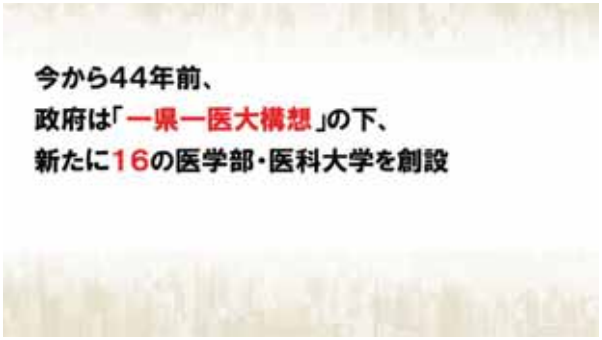
昨年の旭川の冬は、観測史上最も早い根雪のスタートとなり、雪が多く寒い日が続きました。北海道に桜の便りが届くのはまだ先になりそうですが、旭川にも、遅い春がようやく訪れようとしています。これまでの努力が見事に実を結び、こうして本学の門をくぐった皆さんにとっては、まさに「待ち望んだ春」到来と思います。

本日入学された医学科第一学年112名の皆さん、医学科第二学年・編入生10名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

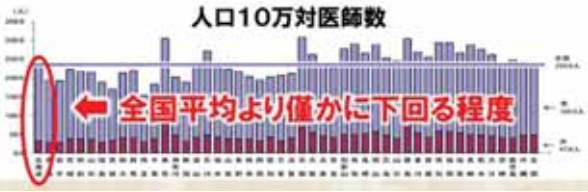
ご来賓の皆様並びにご家族の皆様のご列席のもと、本学の入学式を迎えられる慶びを、教職員一同と共に、今、改めて噛みしめております。

今日からは、ここ旭川医科大学が皆さんの「夢を実現する舞台」です。私達教職員は、皆さんがこの「夢」を実現できるよう、全力で応援します。

本学では、今年度から入学式の内容を大きく変えました。例年は、「学長挨拶」を述べていましたが、私から夢いっぱいの新入生の皆さんに、スライド形式で「学長からのエール」を贈ります。医療を取り巻く現状や医学を学ぶことの厳しさ等を、写真やビデオを交えながらお伝えします。本稿ではそのスライドを示します。



道内では、毎年300名超の医師が誕生
道内の医師数は、12,431人（H26年12月末）



しかし、医師の半数以上が、札幌・旭川に集中

北海道は未だに医師不足

看護師不足も深刻

- 国が、看護体制を見直したこと
- 看護師も、札幌都市圏に集中していること

などから、地方では看護師不足が慢性的に

「地域の医療格差」を解消したい！

「地域の医療格差」の解消：

1. **入試制度の改革（医学科）**
2. 遠隔医療の推進

①北・東、地域枠
（平成20年度から）
10名

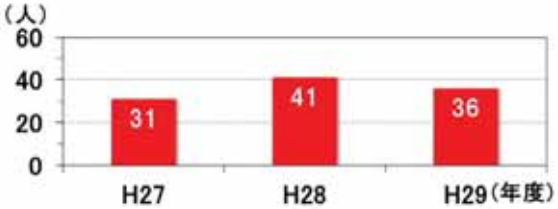
②全北海道　特別枠（平成21年度から）

- 道内全体から40名
- 定員の約50%まで「地域枠」とした（全国初）
- この改革で、卒業生の多くを旭川医大に残したい

新制度での入試結果（医学科）

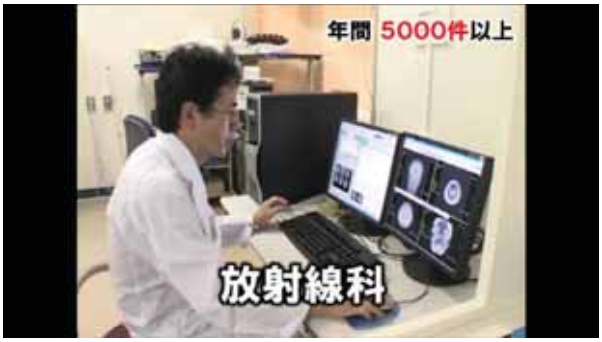
道内出身者が6割以上になった！

旭川医大病院に残った卒業生



「地域の医療格差」の解消：

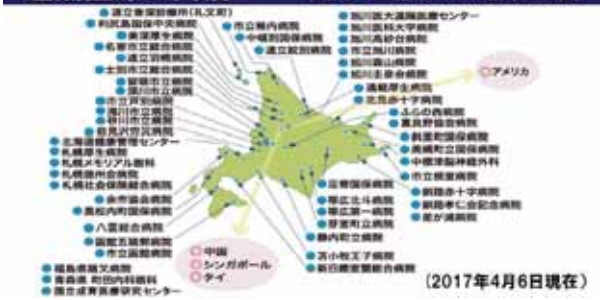
1. 入試制度の改革（医学科）
2. **遠隔医療の推進**



メディアが注目！

2004年	「クローズアップ現代」	NHK
2006年	「とくダネ！」	フジテレビ
2008年	「ガイアの夜明け」	TV東京
2008年	「鳥越俊太郎～医療の現場」	BS朝日
2009年	「武田鉄矢の週刊鉄学」	CS朝日
2010年	「ワールド・ビジネス・サテライト」	TV東京
2016年	「オトナの社会科見学」	BS朝日

遠隔医療の実績　国内50施設 ／ 海外4カ国



(2017年4月6日現在)

「地域の医療格差」の解消：

1. 入試制度の改革（医学科）
2. 遠隔医療の推進

「遠隔医療」を海外展開へ

中国からの書簡　2011年

吉田先生：

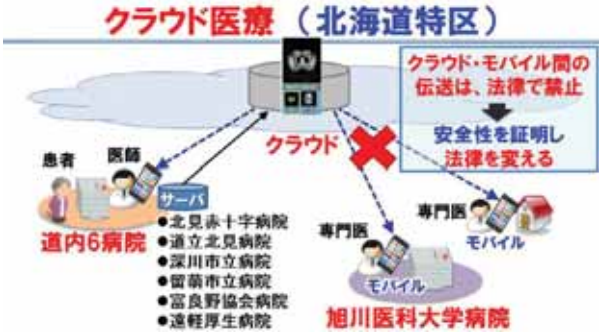
・・・・・

当方、中国の"第十二回、五か年計画"に
遠隔医療計画を入れ、
「旭川医大版の遠隔医療」を取り入れることを
政府で決めました

・・・・・

中国衛生部（厚生省）

「クラウド医療」を開始



クラウド医療は、

1. 人（患者・医師）を動かさず、情報を動かす、
   時空を超えた新しい医療
2. 医師が偏在している日本の医療を救う
3. 医療費の削減に有効
   ① 患者は、必要な時だけ、必要な病院に行く
   ② 医師は、必要な時だけ、必要な病院に行く
      1：医師に時間的余裕
      2：地方病院が、出張医に支払う報酬が大幅に減る
4. Big Dataを　集める

この世界初の技術を発表するのは

「世界の中心：ニューヨーク」しかない

（外務省北米第2課）と確信し、

乗り込みました

NHKは、これを全世界に1日で9回放映

NHK新記録

このニュースは、この日、世界で9位

NHK新記録

NHKによれば、毎年100位以内に入るのは
1～2件とのこと

ニューヨーク　プラザホテルでの
日本人の大規模な記者会見

（過去3名、外務省）

1. SONY　盛田会長

2. ソフトバンク　孫社長

3. 旭川医科大学　吉田学長

即座に、大きな 大きな反響が・・・

これは、commencement だ ！

すなわち、新しい時代の始まり

教育環境の紹介

「講義実習棟」は、
平成25年にリニューアル

「図書館」は、
平成26年に増・改築

更に、旭川医大は、教育現場も充実
教育方法も、最先端！

厳しい現実

残念ながら、
医学科　第1学年、第2学年では、
成績不良で留年する学生が多い
今年3月には、
第1学年18名、第2学年10名が留年
過去3年間、第1、第2学年で各々
平均10名が留年

大学は、高校、予備校とは全く違う
皆さん自身が、自ら、舵取り役に
ならなければ、多くを学べない場所

国家試験という、大きな壁に向かって、
しっかりと勉強し、突破してください

今後の旭川医大

私のビジョン

「国際医療・支援センター」で、

- 医師、看護師、(ICT担当)技術者等を、各国から、毎年10名位ずつ、受け入れ、「高度医療」を教育
- 「日本製の」最先端・医療機器を使い、帰国後は先方の国に、それを購入してもらい、教育を継続
- 教育の継続には、旭川医科大学しか実践していない「クラウド医療」を海外へ応用
- 相手国の医師などを十分に教育した上で、相手国に病院を造る

そして、旭川医科大学が

国際医療支援のエンジンとなり、

旭川を「国際医療都市」にしたい！

結びに

全国で

医師は、毎年 8千人 程度 増加

看護師は、毎年 5万人 程度 増加

将来、医師や看護師の数が、十分足りるという時代が訪れます

私が入学生に望むこと

夢

情熱

感動

吉田学長からのメッセージ

さあ！

一緒に、最先端の医学・看護学を学びましょう！

それが、「地域医療」に繋がります！！

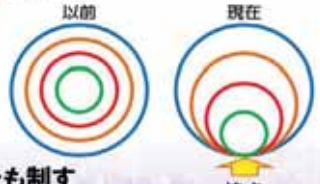
そして、世界を目指しましょう！！

今、旭川医大は、方向転換を考えている

ローカル（北海道の地域医療）から

グローバル（世界の医療）へ

グローバル ― 世界
リージョナル ― アジア
ナショナル ― 日本
ローカル ― 北海道



グローバルはローカルをも制す

（町医者を目指すと、町医者にもなれない）

旭川医科大学の

活躍の場は、「∞」です

入学おめでとう

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　板　谷　実朱花

ずっと夢見ていた旭川医科大学の学生となって、約4か月が過ぎました。入学式から始まって講義、実習、部活動、テストと、次から次へとこなしていくうちに、幾分かは旭医生らしさが身についたのではないかと思います。大学の講義は高校までのそれとはまったく違います。専門にその分野を研究されている先生のお話はとても興味深く、もっと勉強したいと思いますし、実際に医療現場の第一線でご活躍される先生の授業では、自分が医師になった時の患者さんと向き合う姿勢を深く考えられます。素晴らしい環境の中で、改めて学ぶことの楽しさを味わっています。

旭川医科大学の魅力は何といっても、人と人との距離の近さではないでしょうか。医学部の特殊性という要素もあり、必修講義ではずっと一緒に勉強し、実習では同じ課題に取り組みます。テスト前には友人同士で分からないところを教えあって勉強しています。また、グループ面談などの医師の先生とお話しする機会もあり、具体的な将来像を描くことにつながっています。人と向き合う職業である医師を目指す者として、このような人と接する機会の多い大学で学べることに喜びを感じる毎日です。

大学での活動は勉強だけではありません。各人が様々な部活動に所属し、楽しく活動しています。私自身は、剣道部と写真部に所属しています。剣道は大学から始めたため、竹刀の構え方や姿勢など気を付けることが独特で、難しく感じる時もありますが、先輩方や経験者の同期に教えてもらいながら楽しく稽古しています。早くも剣道部のメンバーと過ごす時間は、私にとって大切な時間となっています。

６年間という期間は他学科よりは長いですが、それでも勉強に部活にいそしんでいたらあっという間に過ぎ去ってしまいそうです。これからも様々なことに取り組んで、大学生活を充実させていきたいと思います。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　高　橋　采　弓

私は高校二年生の時に将来の進路に悩み、医師になる事を志しました。受験では思うように結果が出ず、一度は他の大学の他学部に入学したものの、医師になりたいという気持ちを捨てることができず、再チャレンジして旭川医科大学の医学科の合格をもらえた時は嬉しさと安堵が混ざったような気持ちでした。

入学してから早4ヶ月が経ちます。様々な場所からきた、様々な生い立ちをもった人達と知り合い、初めての知らない土地での一人暮らしや部活、授業など、大変な事もたくさんありますが、毎日が新鮮でとても楽しく過ごしています。

私が旭川医科大学に入学してとても驚いたことは､部活がとても盛んであるということです。医学科の学生は学ぶ事が多くあり、必然的に勉強量も膨大なものになっていきますが、部活と両立するには気持の切り替えと集中力が必要であると感じています。一人の社会人となってからも、また医師として将来働く上で、この能力を身につけておく事が自分にとって大きな財産になると思います。

一年生の授業は主に一般教養ですが、5月に早期体験実習というものがあり、病院や介護施設などで､実際の医療現場を見る事ができます。施設のスタッフの方々とお話しする事でどのような志を持って、日々どのような気持ちを持って患者さんに接しているのか、その一端に触れる事ができました。また、病院の患者さんや介護施設の利用者と直接話をする事で医療従事者はただ人のために尽くすだけではなく、相手からも温かさや元気を貰える職業なのだなという事を感じました。

将来医師として働く事にわくわくしている一方、勉強や部活など学生である今しかできない事、目の前の事を目一杯楽しんで、充実した学生生活を送れるように頑張ります。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　中　村　春　野

私がこの大学に入学して、4か月が過ぎました。高校までの授業とは全く違う大学での講義、新しい仲間との出会い、大学から始めた部活動、初めての一人暮らしなど、新たな環境にも少しずつ慣れ、充実した日々を過ごしています。

大学に入学して感じたこと、高校までとは異なること、それは自らが進んで課題を見つけ、探求する心が求められていることです。課題は先生や周囲の人々から与えられるのではなく、自らが考え、積極的に学ぶ姿勢を持ち、自分の世界を広げていく必要があると感じます。例えば、５月に行われた早期体験実習では、実際に病院を訪問させていただき、２日間にわたって見学、仕事の体験をさせていただきました。事前に自分で目標設定を行い、実習においてなにを学びたいのか、明確な意思をもって行動することによって得たものは大きかったです。また、そのような能動的な姿勢は日常生活の中でも重要です。まず、勉強面では講義やテキストで学んだことをもとに課題点を見つける、またはさらに発展した学習を行うことで知識の幅を広げます。そのときにまわりの友人と意見を交わし、先生方にお話を伺うことも大切です。人間関係を構築していくうえでも、積極的に部活動や課外活動に取り組み、多くの方と関わり、様々な経験をすることで、自らの人脈を広げ、教養を深める努力をしたいと思います。

旭川医大には、様々な学びの機会、環境が整っていると感じます。私はこの大学で、どんなことにも積極的に学ぶ姿勢を持ち、幅広い知識を身に着け、広い視野や価値観を理解できる人間性を養い、将来医療人として働くための土台を作っていきたいと思います。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　成　田　理　貴

私が旭川医科大学に入学して四か月になろうとしています。忙しいと時間はあっという間に過ぎてしまうもので、この間には色々なことがありました。入学してすぐにある新歓合宿では大学の先輩方の力強さを肌で感じました。その後始まった講義の日々は、高校と同じような時間割で大学生になったという実感はあまり得られませんでした。物理や生物の実習のレポートに追われていて、高校の頃よりも忙しかったような気がします。また、医療概論という講義や、近隣の病院や施設に行って学ばせてもらう早期体験実習などの医学部らしいところもありました。6月には医大祭があり、高校とのスケールの違いが改めて感じられました。

旭川医科大学は部活動に熱心な方が多く、多くの部活動が日々遅くまで練習しています。私はずっと続けてきたサッカーを大学でも続けたいと思い、サッカー部に入りました。サッカー初心者の方も選抜などにも選ばれるような上手な方もみんな一緒に楽しくサッカーをしつつも、東医体や学生リーグの試合に向けての厳しい練習をする面もあり、日々の練習が楽しくも苦しくもあります。先輩方や同期とよかったところや悪かったところを話し合いながら練習するのは、大学生らしく頭を使っていてとても面白いです。

旭川医科大学の一年生のうちの講義は、医師として働くときに直接役に立つものは多くはありませんが、今後学んでいくことの土台となると思います。将来良い医師となるために、今学んでいることを取りこぼさないようにしていきたいです。また、私は医師になった後のことをまだ何も考えていないので、将来どの科に進むか、どんな医師になるかを講義や講演会に参加して色々な人の話を聞いてゆっくりと時間をかけて決めたいと思います。そして、部活動などを通して同期や先輩方と仲良くなり、大学生活を充実させていきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　松　原　寛　太

私は１年間の浪人生活を経て、日本最北の医科大学この旭川医科大学に晴れて合格しました。周囲の友人達が次々に進路を決める中、最後の後期日程合格発表まで決まらなかったので、自分の受験番号を見つけた時は喜びのあまり泣き崩れてしまいました。いざ入学してみると、地元埼玉とは気候が異なることや道路幅の広さ、たくさんの雪と様々なものが新鮮に感じましたが、入学から４ヶ月で私は旭川が大好きになりました。

私は旭川で人生初めての一人暮らしを初めました、まだまだ自己管理が未熟ですが、先輩方のようにメリハリをつけて学生生活を充実させられるよう努力します。

４ヶ月間の出来事を振り返ってみると、雪の残る入学式と初めての新歓で気候の違いや先輩方の気迫に圧倒された4月、早期体験実習Ｉで２日間だけ医療の現場に触れることが出来た５月、初めての大学の学祭、地域医療学の授業で感銘を受けた６月、初めての大学の試験に追われた７月とあっという間に過ぎてしまったと感じます。特に地域医療学の授業では、北海道と本州の地域医療の違いなどを学び、いままで都会志向の強かった私の考えが変わりました。実際に地域医療に携わる先生方の話を聞くことで、本学が力を入れる地域医療というものがとても魅力的に感じられました。

また、私は小さい頃からスキーが好きだったので、大学ではスキーをしようと思い、競技スキー部に入部し、中学時代に打ち込んだアルペンスキーを再開させました。今は冬に向けて体力作りをしています。スキーをするには体力が必要ですし、医師も体力が必要だと思うので、日々の練習にもやる気がみなぎってきます。限られた練習時間しかないので、与えられた時間を大切にして心身の鍛錬をしていきたいと思います。

まだ、医師への道のりのスタートラインから1歩踏み出したかどうかといった所ですが、これからしっかりと1歩1歩踏みしめて良い医師になれるよう努力していきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　和　田　悠　里

旭川医科大学に入学して、早３ヶ月が経ちました。昨年の今頃は、先の見えない浪人生活を送っていたこともあり、ここまで本当にあっという間でした。

４月、新歓時期。数多くの部活動による勧誘の勢いに圧倒されながらも、私は中学高校でも所属していた陸上競技部と、大好きな歌をしたくてギター部にも入部しました。５月には早期体験実習があり、ある特別養護老人ホームでお世話になりました。私は自身の課題として、「病院とは異なる施設にいるコメディカルの方の視点を学ぶ」を掲げて実習に臨み、施設スタッフの方々の姿やお話から、多くのことを学んでくることができました。また、施設の高齢者の方々が私の手を握ってくださったときのぬくもりは、とてもとても暖かくて……ずっと若いはずの私の方がたくさんの元気をもらったことは、今でも忘れられません。そして、６月は岩手で行われた北医体に出場。２種目で入賞することが出来ましたが、記録はまだまだ満足出来るものではなかったので、８月にある東医体に向けてさらに練習を積みたいと思います。

この３ヶ月、イベントが盛り沢山でしたが、もちろん勉学も忘れてはいません。中でも私は「地域医療学」という講義が大好きで、道内の各地で活躍されている先生方から北海道の地域医療の現状を伺い、想像を超えた厳しさを知りながらも、将来は自分も北海道の地域医療を担うのだという気持ちを高めています。この他にも教養を深めるための講義を受けていますが、自分一人では理解できないことが多々あり、実習では自分の不器用さを痛感する日々ですが、支えてくれる仲間に恵まれたおかげで、ここまで挫けずに頑張ることができました。これから先、もっと困難なことが待ち構えていると思いますが、医師になると誓った決意を忘れず、そして、人とのつながりを大切に、旭川医科大学での学生生活を充実させていきます。

旭川医科大学に編入して

医学科第２学年　西　川　瑛　亮

旭川医科大学に編入して、約４か月が経ちました。医学科での生活は非常に充実しており、日々レポートやテストに追われ、あっという間に４か月が経ち、緊張しながら入学式に行った日がついこの間の事のようです。新しい環境で、また久しぶりの大学生生活ということもあり、最初は慣れないこともありましたが、今では周りの方々に支えられながら、楽しく学生生活を送っております。

私は以前、歯科医師として大学病院で勤務しておりました。そこで、臨床と研究に携わり、臨床では北海道という広大な地域ならではの医療の特性、また研究では医学の発展における研究の重要性やその難しさを学びました。北海道の都市部から離れた地域への出張もあり、その際には歯科という分野においても医療資源が不足し、とくに専門医の都市部への集中を身を持って感じました。もともと、医科への憧れもありましたが、歯科医師として北海道の地域医療に携わる中で、もっと全身へ介入できる医師になり大好きな北海道という地で貢献したいという思いが強くなり、旭川医科大学へ編入させていただき現在に至ります。

本学の特徴として、日々の講義や実習を受けるなかで、教務の方々を含め学生へのサポート体制が非常にしっかりしているように感じます。もちろん、大学生は自主性を求められると思いますが、本学は学生の自主性を尊重した上で、学生がより学びやすい環境になるよう、また医学生として充実したキャリアを構築できるように支援して頂けるので安心して勉学に励むことができます。また、同期には部活動に熱心に取り組んでいる学生も多く、勉学と部活動を両立する姿勢を見て、私も刺激を受けモチベーションを保つ一助となっております。このようなすばらしい環境で学べることに感謝しつつ、これから医学を学ぶうえで、将来のビジョンをもっと明確にし仲間と支え合いながら日々精進して参りたいと思います。

旭川医科大学に入学して

看護学科第１学年　佐　﨑　美　矩

私が旭川医科大学に入学してから約４ヶ月が経ちました。新歓合宿、医大祭、早期体験実習などの様々な行事や実習があっという間に過ぎたと感じながらもとても充実した生活を送っています。

この４ヶ月間、私が看護や一般教養の講義を受けて気づいたことがあります。それは、自分が今までなんとなくでしか考えられていなかったような日常生活の中の一つ一つの言葉、変化を深く考え、理解していかなければならないということです。そうするためには自己学習や課題で多くの時間を必要とするため、大変なこともありますが、理解すると看護の学びになるだけでなく、自分の生活への視点も変わるなど、新しい学びがとても刺激あるものになっています。また、地域医療に興味があった私は、一年生のうちから上富良野町で早期体験実習を行い、地域の医療の実態や高齢者の日常生活の苦

労などについて知ることが出来たこと、実際に高齢者の方々と話すことが出来たのはとても良い体験になりました。

私は、部活動にも積極的に参加したいと考え、３つの部活を兼部し、大会やコンサートに出たりしています。そのため、多くの人と交流が出来、とても楽しいです。部活動と学業の両立をしっかりとすることで、体力、自己管理能力、精神面の向上につながり、将来にも役立つことであると考えています。また、先輩方や同期との交流を通して、信頼関係の築き方を知るということにおいても重要な場であると感じます。

１ヶ月間の夏休みが終わると、大学病院での実習が行われます。看護についてまだ学んでいないことも多い中で実習に行くのはとても緊張しますが、医療現場を実際に見て、より多くのことを吸収し、これからの学習に生かしていきたいと考えています。

そして、この4年間で学生生活を楽しむということだけでなく、将来のビジョンをしっかりと定め、看護師になるため日々の学びを大切にしていこうと思います。

旭川医科大学に入学して

看護学科第１学年　鈴　木　悠　里

旭川医科大学に入学して約4か月が経ちました。生まれ育った旭川で進学・就職したいという思いから、この大学を目指し、合格できたことを嬉しく思います。大学生活は、平日はほぼ毎日１講目から６講目の講義に加えて大量の課題と慣れないレポートがあり、日々追われた生活を送っているように感じています。看護技術に比べて一般教養や看護を行う上で必要となる知識を養うための科目が多く、まだ本格的な実習は始まってはいませんが、高校のようにすべての科目を暗記するようなものではなく、根拠をもって論理的に考える学びをしているため、新しい発見や興味が出てきてとても新鮮で充実しています。勉強は大変ではありますが、どれも看護師になるには大切になるものであるので、学んでいて知らないものを知ることができるのは楽しいです。看護学科の同期は出会ってまだ日は浅いですが、同じ目標を持ち、お互いに助け合えるので恵まれていると思っています。

旭川医科大学の魅力は医学部のみなので、医学科の同期と接することが多く、将来同じ医療者になる者として刺激を受けることができていることだと思います。また、小規模な大学だからこそ、素敵な先輩方と出会え、私にとって学習でも部活動でも頼りになる憧れの存在ができました。さらに、総合病院と連携しているため、臨床の先生の講義を受けることができたり、ほかの看護を学ぶ大学と比べて常に医療にかかわる人たちが周りにいるので、気が引き締まると同時に将来の自分と重ねてモチベーションが上がります。

入学と同時に将来の職業を決めましたが、看護師の道も様々あると思うので、大学生活の中で自分のやりたいこと、自分に合うことを模索していきたいと思っています。まだ看護師になるためのスタートラインに立てただけではありますが、勉強・演習・実習に真摯に取り組み、現場で活躍できる看護師になれるように頑張っていきたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第１学年　　古　川　美　里

旭川医科大学に入学して、早くも４か月が経ちました。入学した当初は、見知らぬ土地での一人暮らしや、大学生活、勉強、新しい人との出会いなど、希望と期待で胸を膨らませていた一方で、不安な気持ちと寂しさが入れ混じることもありました。しかし学校生活は､朝から夕方まで１日講義を受けて、放課後は部活やバイトをして、帰宅後に課題をすませるというように慌ただしいものでした。忙しくはありますが、交友関係も徐々に広まったことで、今では充実した楽しい毎日を送っています。

入学してから体験した事は初めてのことばかりで、驚きや戸惑いも多くありました。学習面では課題が多く、いつも追われる毎日でこなすことに精一杯でした。またレポートもこれまで書いた経験もなく手探りで取り組んでいました。しかし数をこなしていくうちに少しずつ慣れてきたように思います。学習面以外にも、先輩と後輩の仲が良いことにも驚きました。部活関係なく横のつながりはもちろんのこと、縦のつながりも非常に強いです。学習に関してアドバイスをくれたり、親身になって相談に乗ってくれたりと頼りになる存在で、それ以外でも様々なことでお世話になることが多いです。

旭川医科大学は１学年のうちから実践的な看護､医療について学ぶ機会が豊富だと思います。６月には早期体験実習で福祉施設を訪問しました。医療と介護の役割や現状について初めて間近で感じ、これから医療者を目指すにあたっての覚悟や心構えができたと感じました。夏休みが明けてからは旭川医科大学病院で基礎看護実習をさせていただきます。初めて実際の看護実践を間近で学ぶため、緊張や不安はあります。しかし、４月から学習してきた看護についての知識や技術を少ないながらも実践の場につなげて、様々な考えや、新たな気づきと知識を吸収していきたいです。また看護学生としての自覚を持ち、良い学びになるようにしっかりと取り組みたいと思います。

最後に、これまでの4か月があっという間であったように、これからの学生生活も同様にすぐに過ぎ去ってしまうと思います。焦らずに１歩１歩着実に確かな看護の知識と技術を身に着け、経験を積んで、自分の理想とする看護師像を見失わぬような学習をしていきたい。また、つらいときは仲間と励ましあいながら、悔いのない大学生活を送っていきたいです。

平成29年度入学式を挙行しました

平成29年度入学式が４月６日（木）10時30分から本学体育館において行われ、新入生やご家族の方々など、本学関係者を含め約500名が参加しました。

今回の入学式では、今春の学位記授与式と同様に、会場内左右に大型スクリーンが配置され、やや緊張した面持ちの新入生の様子が投影されました。国歌演奏に続いて、新入生一人ひとりの名前が読み上げられ、医学科112名、医学科第２年次編入学10名、看護学科61名の併せて183名が入学を許可されました。

続いて、入学生を代表して医学科　阿部　光さんによる宣誓が行われ、新入生それぞれが医療職者を目指す者としての決意を胸に刻み、大学生活の一歩を踏み出しました。

さらに、昨年度までの学長挨拶と趣向を変え、吉田学長から「学長からのエール」と題したスライド形式の挨拶があり、新入生に対し、「世界に目を向けて、夢・情熱・感動を持って、日々精進してほしい。」と激励のメッセージが贈られました。

▲真剣な眼差しで学長挨拶に耳を傾ける新入生

▲学長挨拶

▲新入生宣誓

平成29年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成29年度医学科・看護学科新入生合同研修会が４月７日（金）、10日（月）の二日間にわたり実施されました。

一日目は、まず看護学科棟大講義室に集合し、機能強化担当学長補佐の千石一雄教授からご挨拶があり、オリエンテーションが行われました。その後、「旭川医科大学が重視する地域医療について」と題した全体ガイダンスが地域医療教育学講座　野津司准教授により行われ、先生ご自身の体験談を交えながらの北海道の地域医療に関するお話に、新入生たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、医学科、看護学科に分かれたガイダンスがあり、医学科では、学年担当の林　要喜知教授、教育センター副センター長の蒔田芳男教授、そして入学センターの坂本尚志教授から「最近の医師はどのように育てられているか」といったカリキュラム等の説明がありました。そして、看護学科では、学年担当の濵田珠美教授、看護学講座の服部ユカリ教授、藤井智子教授、伊藤幸子教授、一條明美准教授から、看護学科での『学び方』や保健師課程や助産師課程のカリキュラム等についてガイダンスが行われました。

午後からは、NHK旭川放送局と学生自主組織「はしっくす」の共同企画である「旭川・道北の魅力プレゼンテーション」が行われ、NHKアナウンサーと「はしっくす」の学生達から、旭川市内及び近郊のおすすめスポットの紹介がありました。続いて、内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）澤田康司講師（学内）による「お酒　正しいつきあい方と命を守る正しい対応方法」では、相次ぐ大学生による飲酒事故を防ぐための知識を学びました。

二日目は、「これだけは知っておきたい！マナーの基本」と題して、リフレイム代表の河野恵美講師による講演が行われ、大学生として身に付けるべきマナーについて学びました。引き続き、メンタルヘルス担当学長補佐の千葉茂教授から、「睡眠からみたメンタルヘルス」と題した講演が行われ、睡眠の重要性についてお話しいただきました。講演後も、新入生から積極的な質問が交わされ、学生達の関心の高さが感じられました。

午後からはグループ毎に分かれて、救急医学講座 藤田智教授と名寄市立病院　山巻多先生のご指導のもと、心臓マッサージなどの救急蘇生実習を行いました。各グループには、本学卒業生を含む研修医の先生方にもついていただき、１人ずつ心肺蘇生キット「あっぱくん」を使用しながら、心肺蘇生の知識・技術を学びました。

一方、旭川労働基準監督署の講師による「知って役立つ労働法（アルバイトを始める前に）」では、ブラックアルバイトから身を守る方法を学び、続いて、カルト団体や薬物防止の最前線で任務にあたっている旭川東警察署の警察官から、オウム真理教や危険ドラッグの危険性についてご講演いただきました。

最後に、保健管理センター長の川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師からは、「健康な学生生活を送るには－ほけかんとどう向き合うか－」と題し、保健管理センターの利用方法等についてお話がありました。

二日間ではありましたが、内容の濃い有意義な研修会となりました。

▲オリエンテーション

▲救急蘇生実習

▲マナー講習

▲積極的に質問する受講生

学生海外留学助成制度への謝意と海外への留学について

医学科第３学年　柏　木　　陸

2017年3月18日から２週間、私はサンフランシスコ周辺に宿泊し、スタンフォード大学が行うプログラムに参加していました。そのプログラムは、医師を目指すアジアの学生を対象としていて、スタンフォード大学やUCSF（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）医学生コーディネーターと共に、実際にサンフランシスコの病院や医療現場を訪問します。この訪問を通して、様々な角度からアメリカの医療や日本の医療を考えることができます。

アメリカの医療と日本の医療を比較することによって様々なことが見えてきます。例えば、保険制度です。日本では国民皆保険制度が取られています。この制度のおかげで、私たち国民はいつでも、どんな病気でも、全ての病院で治療費全体の３割負担のみで適切な治療を受けることができています。一方アメリカでは保険に加入するか否かは個人の判断に委ねられています。つまり、「保険に加入しない」という選択肢もあり得るということです。選択の自由があると言えば聞こえはいいですが、問題となるのが、アメリカの保険制度の複雑さと治療費の高さです。アメリカの保険の複雑さは日本の比ではなく、一般の方で全体像を掴めている人はほとんどいません。それに加えて、治療費がとても高額で、このために治療費を払うことができずに破産してしまう人や、お金を払うことができないために、病気にもかかわらず治療を受けることをできない人が毎年多く出ています。日本で住んでいる私たちにはとても考えられない話です。この自費で治療費を出さなくてはいけないシステムのことをout-of-pocketと言います。

この制度の「穴」に入ってしまっている人たち、つまり保険に入りたいが、お金がないため入れていない人たちを助けようとした制度が、通称オバマケアであり、それを撤廃しようとする動きが俗称トランプケアと呼ばれています。私がサンフランシスコについた時、偶然にもその話題で持ちきりだったので、その話題についてもアメリカに在住の方たちの意見などを聞けて、とても興味深かったのを覚えています。

比較することによって見えてくるものは、保険制度だけではありません。病院自体のシステムであったり、救急車やドクターヘリのシステム、医師自体の気質にも違いが見えてきます。私たちは、比較対象がない状態では往々にして物事を正しく捉えることができません。比較するものがないと「差異」が存在しないからです。今回アメリカの医療を実際に目にしていく中で、そのことを身にしみて実感しました。

また、学べたのはアメリカと日本の間のことだけではありませんでした。このプログラムには日本各地からも学年や性別の関係なく医学部生が集まってきますから、それぞれのシステムの違い、考え方の違いなどを知ることができます。学年関係なく同じグループに所属することになるので、学年上の人が今勉強していること、医療に対してのそれぞれの捉え方の違いなどを再認識するいい機会になりました。全ての職業について言えることですが、様々な事柄について多様的な視点を持つことは、将来医師になる私たちにとっても、欠かせないことだと私は思っています。

一般に言う「有名大学」と呼ばれるような大学からの学生たちもそのプログラムにはたくさん参加しています。そしてそのほぼ全ての学生たちが、大学からの奨学金を受けていました。つまり大学自体が、学生に色々な経験を持たせることを良しとし、さらに経済的にも後押しをしているわけです。そして、旭川医科大学にも「学生海外留学助成制度」という奨学金制度があることを在学生として誇りに思うと同時に、この制度によって今回のような貴重な体験をすることができたことに感謝の念がつきません。

学生海外留学助成制度を利用して

～ＩＦＭＳＡ基礎研究交換留学への参加報告～

医学科第４学年　根　来　柚　衣

私は、2017年3月6日～3月31日の日程でIFMSA基礎研究交換留学に参加させて頂き、デンマークはコペンハーゲンに滞在させて頂きました。IFMSA(International Federation of Medical Students' Associations－国際医学生連盟)というのは、国際NGOの医学生団体であり、本部をフランスの世界医師会内に置き、世界中に支部を持つ団体です。今回、私が参加させて頂いた基礎研究交換留学というのは、IFMSAに所属する学生によって運営されています。

私がデンマークを今回の留学先として選択した理由に、福祉国家と言われる国の医療体制をはじめ現地の生活そのものに触れてみたい、公用語はデンマーク語であるものの英語が広く話されている土地に身を置き英語力を高めたい、というものがありました。

今回の留学で私がお世話になった研究室は、コペンハーゲン郊外に位置するHvidovre Hospital内にあり、留学期間中の平日は毎日そこに通いました。研究室では、主に経頭蓋磁気刺激と経頭蓋電流刺激の実験にアシスタントとして参加し学ばせて頂きました。実験の準備などの慣れない作業や、現地の研究者や被験者の方々との英語でのコミュニケーションには四苦八苦しましたが、プロフェッショナルな現場を体験できる非常に貴重な経験でありました。さらに、脳刺激のレクチャーの受講、現地放射線科医による実際の患者さんのMRI画像解説を交えた症例の説明など、多様な学習機会を与えて頂きました。

滞在中は、コペンハーゲン大学に通う学生の家にホームステイをし、現地の医学生や薬学生と互いの国の大学や勉強の話、文化の違いなどを教えあい、交流を深めることが出来ました。

今回の留学を通して、新しい環境に身を置くことで実に様々な刺激を受け、特に研究的知見を持つことへの興味が非常に湧くようになりました。このことは、自らの理想の医師像を見つめ直す点で大きく影響し、これからの学生生活への向き合い方を変えると思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただいた旭川医科大学の皆さまをはじめ、今回の留学を支持して下さったすべての皆さまに深く御礼申し上げます。

スコットランド・グラスゴー大学での臨床実習

医学科第６学年　吉　松　　凛

この度、学生海外留学助成制度を利用して、「英国大学医学部における留学実習のための短期留学」プログラムを通じ、グラスゴー大学において2017年3月に4週間の臨床実習をする機会をいただきました。

留学を希望した理由は、医療現場で対応できる専門的な医学英語力を英語圏の臨床実習を通じて磨きながら、自大学とは全く異なった環境での医療現場を経験し、視野を広げたかったからです。

留学先では、グラスゴー大学医学部付属のQueen Elizabeth University Hospital病院にて、外科 (血管、上部消化管、下部消化管、乳腺を一週間ずつ)で実習させていただきました。各科では手術見学、病棟回診、外来見学、講義への参加の他に、新患の問診と簡単な身体診察を経験することができました。

スコットランドは面積や人口が北海道とほぼ同じで、気候も似ていますが、疾病の発症率が大きく異なります。例えば、胃がんの発症率が低いため、胃がんスクリーニングを行っておらず、発見時には進行がんであることがほとんどです。症例数が少ないため、内視鏡手術の技術も進んでおらず適応があっても開腹手術になる場合が多いです。反対に、乳がんの発症率は高く、50歳以上の女性は国から乳がんスクリーニングを義務付けられています。スクリーニング外来では乳房触診の方法を学び、実際に何十人もの患者さんを触診しました。

今回の留学で身に付けた臨床技術は帰国した翌日から臨床実習で活かすことができました。これからも英国実習での貴重な経験を今後の勉強、キャリア、そして人生に活かしていけるよう努力していきます。

最後になりますが、推薦してくださった吉田学長並びに学年担任の高橋先生、留学準備に合わせ実習予定を融通してくださった先生方、サポートいただきました旭川医科大学の学生支援課の皆様に心より感謝申し上げます。

医大祭2017が開催されました

第43回旭川医科大学医大祭が平成29年６月10日（土）・11日（日）の２日間にわたり開催されました。

今年度の医大祭のテーマは『医新伝心』。『医』学という分野は日々進歩しており、『新』しくなっている。そのような医学を学ぶ学生として、人を想い『心』から『伝』えることを大切としたいといった意味が込められていました。このテーマ通り、この医大祭を通して、学生同士、市民の皆さんとのコミュニケーションを通して、コミュニケーション能力を養うことができたのではないでしょうか。

医大祭の目玉の一つでもある講演会では、元北海道日本ハムファイターズの野球解説者でありスポーツコメンテーターでいらっしゃる、ガンちゃんこと、岩本　勉氏を講師にお迎えし、「世界一面白くて泣けるプロ野球の話」というタイトルでお話いただき、多くの観客に感動を与えてくださいました。医大祭２日目には、毎年恒例のお笑いライブが開催され、今年は「我が家」「エハラマサヒロ」「タイムマシーン３号」「すずらん」「お侍ちゃん」といった豪華な芸人さん５組にお越しいただき、観客を大いに盛り上げてくださいました。

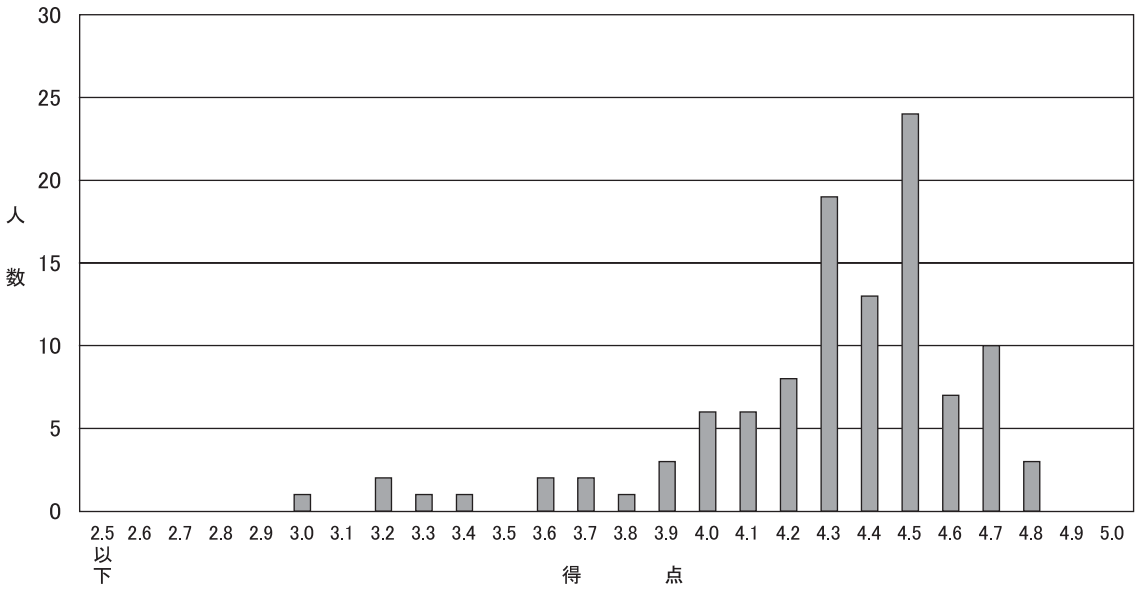
また、医学展では、７月１日に開園50周年を迎えた旭山動物園とのコラボ企画「スタンプラリー」や、旭川市水道局による「水の飲みくらべ」が開催され、学生のみならず多くの市民の方々が楽しんでいました。公開講座では、内視鏡を駆使して臨床現場の最前線にいながら腸内細菌と病態の研究で活躍されている本学内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）の藤谷幹浩准教授に、「腸内細菌と健康」について大変分かりやすく解説していただきました。

すでに医大祭実行委員会では、来年度の医大祭に向けて準備に取りかかっているようです。医大祭2018も期待しましょう！

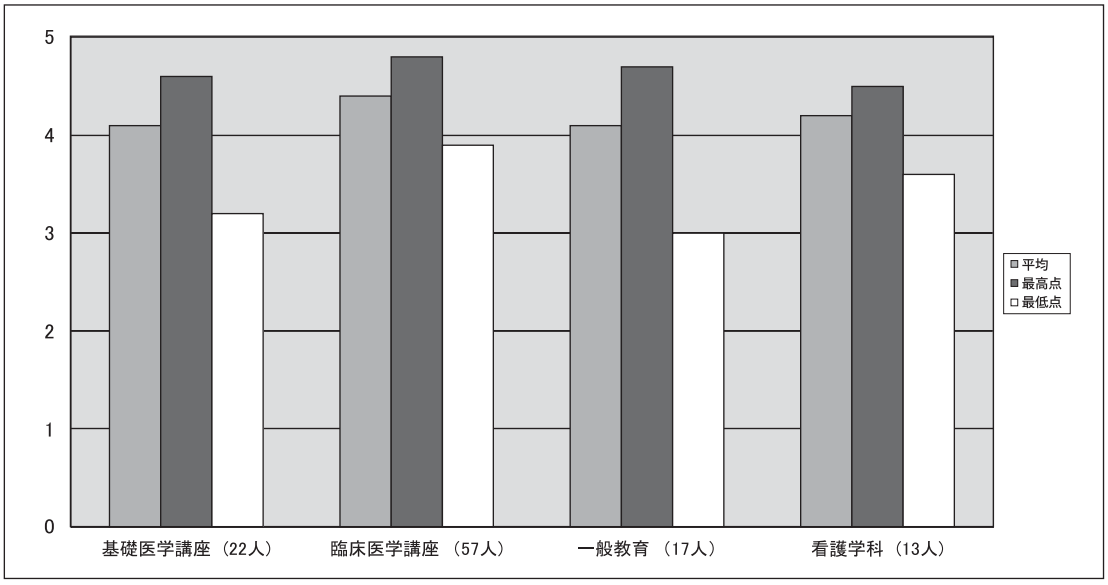
平成28年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	得																								点
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	2	2	1	3	6	6	8	19	13	24	7	10	3	0	0

（実施人数109名 平均4.3）



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問　この授業は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　（非常に良い）
④　やや思う　（良い）
③　どちらとも言えない　（普通）
②　あまりそう思わない　（あまり良くない）
①　全くそう思わない　（良くない）

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履習態度について	問１　事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問２　授業に毎回出席しましたか。
	問３　授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問４　授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問５　科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問６　あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問７　科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問８　この科目は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　(普通)
②　あまりそう思わない　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：医学英語ＩＡ（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：113　配付数：102　回収数：99　回収率：97.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	4.2	4.0	2.9	4.0	4.1	4.0	4.4

＊評価に対するコメント　　医学英語ＩＡ　担当教員

学生は授業の演習に熱心に取り組んでいました。語学という性質上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。この点に関しては教員と学生との両方の課題であると評価の結果から感じています。来年度以降も読解力を中心とした英語力を高めることを期待しています。

科 目 名：医学英語ＩＢ（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：56　配付数：54　回収数：54　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	4.0	4.1	2.8	3.9	4.1	4.2	4.5

＊評価に対するコメント　　医学英語ＩＢ　担当教員

This year’s first year medical students proved themselves to be more that adept at the challenges of English. As future doctors they will need a command of English in order to work in an increasingly global society. Doctors need not only the fundamentals of English grammar, but a mindset that has them looking outward. The first year medical students appeared eager to communicate in English and a desire to learn more. I hope their enthusiasm will continue and, as they get closer to becoming doctors, they will continue to study and learn English.

科 目 名：基礎化学（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：116　配付数：101　回収数：89　回収率：88.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	4.2	3.5	2.8	2.8	2.1	2.4	2.5

＊評価に対するコメント　　基礎化学　担当教員

一時回復傾向だった成績が、ここ１，２年下降気味であることが気になっていたが、結局、相応の結果となった。原因ははっきりしている。必要な勉強をしなかったからである。根拠もなく、自分勝手に勉強の範囲や程度を制限していたのでは、そもそも質問に来ようとも思わないだろうし、当然良い成績などあげられるはずがない。基礎化学では、医学と結びつくことしか教えていないし、２年生以降の専門科目の基盤となることしか教えていない。到達目標はシラバスに示し、講義資料で何度も解説している。勉強するための資料は図書館に十分揃っている。あとは本人が勉強するだけだ。ただ、講義資料に書いてあることをそのまま記憶すればよいと勝手に勘違いしている学生が多い。資料は参考資料にすぎない。また、講義が悠然と進む（べき）ものだと勘違いしている学生も多い。医学部のカリキュラムは勉強すべきことが多いにもかかわらず、各科目に与えられた時間は限られている。だから、当然講義の密度は高く、“かなり頑張らないと”科目の習得は難しいということに気づいてほしい。いや、甘く考えないでほしい。講義で何度も言っているのだから。教える内容が難しくて速いから理解できない、などと甘えている場合ではない。１年生で十分な基礎を身に付けないで、どうして２年生の大きな山を乗り越えることができるだろう。大多数でないことは不幸中の幸いだが、このように現実を正しく認識できずに甘えた学生がいることで、残念な結果となっている。現実に気付いて下さい。だから、必死に遊び、必死に勉強して下さい。ぼやっとしている暇は、残念ながら医学部生にはありません。普段から油断なくやっていれば必ず良い結果に結びつきます。なにより先輩たちがそれを示しています。

科 目 名：基礎生物学（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：119　配付数：117　回収数：104　回収率：88.9％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.4	3.9	3.2	3.6	3.5	3.9	3.9

＊評価に対するコメント　　基礎生物学　担当教員

総合評価は3.9で、昨年度よりも0.3ポイント低下し、平成21年度以降で初めて4.0を下回りました。生物学を含む生命科学の進展は目覚ましいものがあります。教科書として使用している「キャンベル生物学（原著９版）」にも新しい内容が採用されています。一方で、学生の多くは入試で生物を選択していないために基礎知識に乏しいところからのスタートになります。教員もこの点を認識しており、学生の理解が進むように配布資料や講義内容に工夫を凝らしています。ところが、学生の半数近くが自らの理解不足を補うための予習や復習に十分な時間をかけていない状況は残念に思います。自由記載欄に、生物学の面白さや医学を学ぶ上での大切さがわかったというコメントがありましたので、これからに期待したいと思います。

科 目 名：医用物理学（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：121　配付数：120　回収数：112　回収率：93.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	4.3	3.7	2.8	3.6	3.4	3.2	3.5

＊評価に対するコメント　　医用物理学　担当教員

総合評価（問８）は3.5であった。平成24、25年度の総合評価は3.9と比較的高かった。平成24年度以降、内容・教員に大きな変更はなかったものの、復習に関する評価（問４）がこの３年で0.6低下した。学生の努力不足が講義の理解度を下げ、結果的に総合評価を低下させたと推測される。教員は学生が満足できる講義を心掛けますが、学生が努力しないのではどうにもなりません。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科 目 名：分子生物学（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：118　配付数：116　回収数：108　回収率：93.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.4	3.8	3.0	3.4	3.0	3.3	3.3

＊評価に対するコメント　　分子生物学　担当教員

昨年と比べ、総合の評価点（問８）は大きく（0.5点）低下した。同時に、問４、問６、問７が低下していたことから、「復習は十分でない」ため「難しいと感じ」、「学習意欲が持てなかった」という負の連鎖が働いたと予想される。担当教員の一致した見方は「生物学の基礎が十分でない学生が多かった」ことが要因と考えている。年末年始の休みを復習にあてられるように、より積極的な学習態度を支援する創意工夫をはかりたい。

科 目 名：発生遺伝学（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：116　配付数：114　回収数：102　回収率：89.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.4	4.0	3.3	3.7	3.7	3.9	4.0

＊評価に対するコメント　　発生遺伝学　担当教員

総合ポイントは4.0で、昨年度(4.1)と同様でした。この科目の前半では人体発生について講義形式で学び、後半の人類遺伝学分野ではアクティブラーニングを取り入れるなど多彩な講義形式となっています。学習対象が「ヒト」のため、学生の反応は概ね良好でした。ただし、15時間という限られた講義時間の中で多くの内容を提供しようとするあまり、説明不足になってしまったところがありました。本科目の成績評価は１回の試験で行うことを原則としていますが、この点について、昨年度、大きなプレッシャーを感じるというコメントが寄せられました。今年度は再試験を導入することにしました。この効果についてしっかりと検証し、改善を図っていきたいと考えています。

科 目 名：医学英語ⅡＡ（医学科第２学年通年／必修）
履修者数：114　配付数：110　回収数：105　回収率：95.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	4.4	4.1	3.5	3.8	4.0	3.9	4.2

＊評価に対するコメント　　医学英語ⅡＡ　担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。学生のみなさんは、授業の意図を汲み、毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです。量と難易度の調整を工夫していくとともに、課題の質も向上させていきたいと思います。

科 目 名：医学英語ⅡＢ（医学科第２学年通年／必修）
履修者数：114　配付数：109　回収数：109　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.3	4.1	3.3	3.7	3.7	3.8	4.2

＊評価に対するコメント　　医学英語ⅡＢ　担当教員

I appreciate the comments from the second year medical students. Students showed a high command of English in their ability to communicate with me and with each other. As future doctors they will need this ability in international conferences and when speaking to non-Japanese doctors here in Japan. They will also need English to analyze research written in English. The second year students already have a good command of English, but I hope they will continue to improve their English abilities. From what I have seen of the second year students, I am confident they will become doctors with high levels of English proficiency.

科 目 名：医用機器学（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：114　配付数：17　回収数：17　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	3.9	3.4	2.6	3.2	3.4	3.5	3.9

＊評価に対するコメント　　医用機器学　担当教員

担当教員の都合により学生評価を追再試験時に実施しました。多くの学生諸君から授業評価の機会を奪ったことをお詫びします。また、評価者が追再試験受験者に限定されたことで、評価が偏ったと考えています。平成26年実施の評価（配付数123、回収率93.5％、非公開）に比べ、問１や問４で0.3以上低下しました。予習・復習の不足が本試験での成績不良の原因だったかもしれません。一方、問８で0.4上昇しました。

科 目 名：基礎医学特論（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：114　配付数：42　回収数：23　回収率：54.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
1.8	4.2	3.1	2.3	3.2	3.0	3.1	3.1

＊評価に対するコメント　　基礎医学特論　担当教員

基礎医学特論は、基礎医学講座の各講座の研究内容についてそれぞれの講師に紹介していただくオムニバス形式の講義として実施しました。講義内容が多岐にわたり、また、最新の研究内容の紹介で有ったためか、「講義内容が理解できなかった」などのコメントをもらい、科目全体にたいする満足度も3.1でした。研究内容を十分理解することは困難だと思われますが、いろんな分野の講義を聴くことで今後の学習への刺激になれば、と思います。

科 目 名：薬理学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：114　配付数：112　回収数：47　回収率：42.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	4.5	3.7	2.7	3.3	3.5	3.7	3.9

＊評価に対するコメント　　薬理学　担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で様々な疾患や病態に使用される薬物について講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科 目 名：機能形態基礎医学Ⅱ（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：118　配付数：118　回収数：106　回収率：89.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	3.2	3.5	2.9	3.0	2.6	3.2	3.0

＊評価に対するコメント　　機能形態基礎医学Ⅱ　担当教員

講義に対する評価（問５～８）のポイント平均は2.95と前年度の3.4）よりかなり低値であった。主因は、「問６、難易度が適切だったか」に対し２または１の回答が49名（48％）にのぼったことにある。自由記載欄には、分量が多い、進行が早い、試験が難しいという感想が目立った。なお、講義の平均出席率が42％と低く（昨年度は54％）、30％を下まわるコマもあった。各受講者の講義出席率と試験（計３回）の成績との間には、高度に有意な正の相関が認められた。2017年度においては、よりわかりやすい講義を目指すとともに、講義への出席を強く促すなどの対策を講ずる予定である。

科 目 名：寄生虫学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：114　配付数：109　回収数：75　回収率：68.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.2	3.5	3.0	3.1	3.2	3.3	3.5

＊評価に対するコメント　　寄生虫学　担当教員

寄生虫学は中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければなりません。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が3.5であり、前年度とくらべ低下しました。この原因をきちんと分析し、今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科 目 名：微生物学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：119　配付数：119　回収数：80　回収率：67.2％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.1	3.7	3.0	3.3	3.5	3.6	3.7

＊評価に対するコメント　　微生物学　担当教員

今年度から、微生物学では、半分以上の出席を義務項目としました。その点で出席率は改善しましたが、全く講義を聞いていない学生や授業中に遊ぶ学生が多くなり、講義の邪魔となり何度か注意をしました。また、広範な微生物学をどう捉えるべきかを自分で解決できない学生が増えたので、本来学生が自ら作るべき、講義の重要ポイントを半分の領域で作成し、配布しました。学生には試験対策として好評のようでしたが、来年度学生の皆さんには、その資料を使って講義に集中し、講義後の復習を期待します。

科 目 名：病理学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：118　配付数：118　回収数：105　回収率：89.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.2	3.8	3.1	3.3	3.2	3.8	3.6

＊評価に対するコメント　　病理学　担当教員

これまで病理学総論が「組織学」の中で、病理学各論が「機能形態基礎医学」の中で別々に講義されていたが、今年度から「病理学」として独立し、２年生後期11月終わりから２月にかけて病理学総論・各論の講義が集中的に行われた。短い期間の中に多くの講義と総論、各論それぞれの試験が組み込まれており、過酷なスケジュールであったと思われる。自由記載欄には前向きの意見とともに、授業、試験の進め方についての苦情が多数みられた。来年度は、予習ができるように資料配布法を工夫し、到達目標や試験の日程などを早めに伝えるなど、改善していきたい。

科 目 名：精神・神経病態医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：129　配付数：111　回収数：28　回収率：25.2％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.7	4.2	4.3	3.6	3.9	4.0	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　精神・神経病態医学　担当教員

科 目 名：生体調節医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：129　配付数：129　回収数：117　回収率：90.7％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	3.8	3.8	3.3	3.6	3.6	3.8	3.8

＊評価に対するコメント　　生体調節医学　担当教員

糖尿病、内分泌、腎・泌尿器疾患を系統的に扱う科目である。講義は、第一内科（腎）、第二内科（糖尿病・内分泌）、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各科が担当している。講師ごとの講義内容難易度の相違は常に指摘される点であるが、今後とも各講師の努力に期待したい。全体としては、ほぼ昨年と同レベルの評価であるが、復習・宿題の履行の評価が上昇した点は喜ばしいことであった。

科 目 名：生体防御医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：129　配付数：129　回収数：89　回収率：69.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.0	3.8	3.4	3.8	3.9	4.0	4.0

＊評価に対するコメント　　生体防御医学　担当教員

血液疾患、感染症、自己免疫疾患を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占めることは間違いない。全体として評価は4.0であった。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が3.3，3.4と低いことであり、今後の学習意欲を増すか？が4.0に比べると、自発的な学習が十分でないことを危惧する。

科 目 名：感覚器病態医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：129　配付数：121　回収数：77　　回収率：63.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.4	3.9	3.9	3.3	3.7	3.8	3.9	3.9

＊評価に対するコメント　　感覚器病態医学　担当教員

感覚器病態医学の講義企画に対する学生評価をみますと難易度が3.8、満足度が3.9と高い得点をいただきました。自由記載欄には耳鼻科の講義資料が前もって用意されていたこと、レジメがあらかじめ配られたことがよかったとのコメントがありました。他科でも取り入れたい方法と思います。

科 目 名：腫瘍学１（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：129　配付数：128　回収数：120　回収率：93.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.2	3.9	3.3	3.7	3.8	3.7	3.9

＊評価に対するコメント　　腫瘍学１　担当教員

昨年とほぼ同様のスケジュールで腫瘍学総論についての講義を行った。以前に較べ、学生の「腫瘍学」に対する興味が強くなっていることを感じている。また、平成28年３月に我々が編集・執筆した「医学生のための腫瘍学」（響文社）が刊行され、今年度から教科書として用いた。腫瘍学の全体像を理解するために、できるだけ多くの学生に使ってもらいたいと思っている。

科 目 名：全人的医療・緩和ケアコース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：24　配付数：24　回収数：15　回収率：62.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	4.7	4.9	3.4	4.2	4.5	4.8	4.8

＊評価に対するコメント　　全人的医療・緩和ケアコース　担当教員

本コースは、緩和ケアをテーマとして、医師のプロフェッショナリズム、態度教育のコースと位置付けています。そのため知識の伝達を目的とせず、双方向性のやりとりを重視し、学生自身に考えさせるように展開しています。例年通り総合的によい評価を頂きましたが、特筆すべきは「科目の履修により今後の学習意欲が増したか」という設問も満点に近かったことです。選択コースの時間で伝えられることは限られています。しかし、本コースをきっかけに、今後の学びが刺激されたのであれば、果たした役割は小さくはないでしょう。医学部のどこかで、自分がどんな医師になるかを真剣に考える時間がないといけません。今後も多くの学生に受講してもらいたいと思います。

科 目 名：睡眠医学コース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：19　配付数：15　回収数：15　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.6	3.9	3.4	3.8	4.0	4.1	4.1

＊評価に対するコメント　　睡眠医学コース　担当教員

科 目 名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第学３・４年後期／選択必修）
履修者数：79　配付数：39　回収数：13　回収率：33.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.4	3.4	2.9	3.7	3.8	3.7	3.8

＊評価に対するコメント　　生体構造機能蛋白・病態解析コース　担当教員

受講者数79に対して回収数13と評価が全体像を反映しているか否か不明である。しかし全体として満足いくかの項目は3.8という低い評価であった。極めて基礎的な領域から、臨床医学への応用といった、蛋白に関わる広い領域に渡っており、見方によっては魅力的なコースであるが、今後コース全体の改変が必要と思われる。学習意欲を増したかが3.7なのにもかかわらず、授業の復習を毎回したか？の項目が2.9と極めて低く、自発的な学習も期待したい。

科 目 名：ニューロサイエンスコース（医学科第学３・４年後期／選択必修）
履修者数：33　配付数：33　回収数：16　回収率：48.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	4.6	4.2	3.5	4.1	4.2	4.3	4.4

＊評価に対するコメント　　ニューロサイエンスコース　担当教員

受講生は33名、その中で評価は16名の受講生から戴いた。科目全体として4.4点という評価を得た。本企画に対しての具体的な感想や要望等が少ないため、受講生が望んでいる内容や講義の改善点を見いだせないのが残念である。コーディネーターとして、今後は神経科学の枠にとらわれることなく、大学におけるサイエンスの素晴らしさを学生に伝承できるよう心掛ける。

科 目 名：漢方医学コース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：72　配付数：56　回収数：22　回収率：39.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.5	4.1	2.9	3.9	4.0	4.3	4.2

＊評価に対するコメント　　漢方医学コース　担当教員

本コースは、補完医療として重要な位置を占める漢方薬について理解をいただくため開設しております。多分野の講師（学外講師多数）のご協力により成り立っており、すべての授業が授業内で完結する形式で、予習や復習等が無い企画になっております。学生評価として、出席率、履修満足度、学習意欲など高得点をいただきました。今後もコース内容を充実していく考えです。次年度からは、３年生が全員必修になりますので、企画内容も変更していく予定です。

科 目 名：EBM・CPCコース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：1　配付数：1　回収数：1　回収率：100％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

＊評価に対するコメント　　EBM・CPCコース　担当教員

受講者１名という状況で、これまでにない環境であった。複数人で勉強し合う環境が望まれるコースであったが、１名にマンツーマンで指導し、伝えるべきことは十二分に伝えることができた。評価は例年通りであった。今後も、コース設定は変更する予定はない。

科 目 名：加齢と適応の医学コース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：118　配付数：79　回収数：26　回収率：32.9％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.6	4.2	3.4	4.0	4.1	4.1	4.2

＊評価に対するコメント　　加齢と適応の医学コース　担当教員

アンチエイジングは、超高齢化社会を迎えた我が国の医学の主題でもある。加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解するためのコースであるが、総合評価は例年とほぼ同レベルであった。全項目に渡って安定した高評価を得ている点は、コースとしての充実度を反映するものと思われ、担当各科の先生方に敬意を表する。不老長寿が夢物語とは言えない時代に、医学生とともに未来志向の講義展開ができることを嬉しく思う。

科 目 名：糖尿病・内分泌Up－Dateコース（医学科第３・４年後期／選択必修）
履修者数：128　配付数：69　回収数：24　回収率：34.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.6	3.9	3.3	4.0	4.1	4.0	4.2

＊評価に対するコメント　　糖尿病・内分泌Up－Dateコース　担当教員

「糖尿病・内分泌Up－Dateコース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科学、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から、学習することを目的としている。事前の予習について3.2点、復習について3.3点と自己評価は低いが、科目全体に対する満足度は4.2点と一定の評価が得られている。今後も、学生の医学知識を最先端にupdateする企画を提供する。

科 目 名：感覚器医学の最先端コース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：93　配付数：75　回収数：19　回収率：25.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.0	3.6	2.9	3.4	3.9	3.5	3.8

＊評価に対するコメント　　感覚器医学の最先端コース　担当教員

感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを13名で講義した。企画内容に関する評価は４が最も多かったが、今後の学習意欲に関する評価平均が過去最低であった。一方で、予習・復習に関する評価も過去最低であり、本年度の学生はこのコースに対して大きな期待をもっていなかったのかもしれない。本コース選択の際から興味を持ってもらえるようにシラバスを工夫し、今後の学習意欲向上につながる有意義な講義となるよう心掛けたい。

科 目 名：救急・プライマリーケアコース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：20　配付数：20　回収数：20　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.5	4.8	4.6	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6

＊評価に対するコメント　　救急・プライマリーケアコース　担当教員

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、今年もプライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことができたという、高い評価を頂きました。

今後も構成をブラッシュアップし、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科 目 名：臨床感染症学コース（医学科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：51　回収率：82.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.2	3.8	3.5	3.8	4.1	4.1	4.3

＊評価に対するコメント　　臨床感染症学コース　担当教員

本コースの平成28年度の受講学生は、出席点数を併せた総合点で評価し、多くの受講学生が高成績を挙げました。授業評価は、昨年度に比べて、全体評価は4.3とすこし上昇しました。コメントには「とても役立ちました。CBTよりも深い内容でしたが、国試や卒業後に役立つと思いました」などの記載が見られました。臨床感染症に対する知識の基盤構築は、国家試験やCBTに役立つばかりか、医師にとって欠くべからざる重要な課題になっています。今後も、多くの学生諸君がこのコースを受講し、微生物学を基盤とする感染症のより深い理解をしていただけることを期待します。最後に、今年はインフルエンザが流行している時期に試験が重なり、体調不良のため遅刻者が多く、試験担当者への連絡を必ずしてほしいと感じました。

科 目 名：臨床薬理学コース（医科第３・４学年後期／選択必修）
履修者数：56　配付数：55　回収数：52　回収率：94.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.2	4.0	3.4	3.7	3.8	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　臨床薬理学コース　担当教員

臨床薬理学は、第２学年で学習した基礎薬理学の原理を、臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科 目 名：健康弱者のための医学（医学科第４学年通年／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：115　回収率：84.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	4.2	3.8	3.3	3.9	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　健康弱者のための医学　担当教員

心身機能低下がある方々（健康弱者）の健康上の特徴と医学的な対応について纏めたユニークな科目として2012年から開始された。健康弱者についての総論の前半と、各論とリハビリテーションを中心とする後半からなる。総論は全領域にまたがる内容で、将来いずれの臨床科においても役立てられる。例年同様に教科書が無い事から予習、復習の評価点数が低いが総合評価4.1と科目の意義は理解されていると思う。

科 目 名：症候別・課題別講義（医学科第４学年通年／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：109　回収率：80.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.4	4.1	4.0	3.6	3.8	3.9	4.0	3.9

＊評価に対するコメント　　症候別・課題別講義　担当教員

症候別課題別講義は、３層ある旭川医大の臨床講義の２層目に相当します。１層目が疾患別の系統講義、２層目が本講義、３層目が医学チュートリアルです。臨床推論の学習のために症候別講義とチュートリアルⅢⅣのリンクを試みの提案がありました。この件については、すでに導入しております。チュートリアルの課題が少ないことも問題ですので、今年度新規課題の作成に取り組みたいと思います。

科 目 名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第４学年通年／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：85　回収率：62.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.1	3.7	3.5	3.6	3.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント　　臨床薬剤・薬理・治療学　担当教員

本講義は特に予習復習を課していないので、その部分の評点が平均的になっています。また難易度的にもやや難しいと感じている点があるように感じました。本講義は、2年生の薬理学履修済みを前提としていますので、難しいと感じる部分も多いかと思います。講義資料などを改善してわかりやすくしていきたいと思います。理解できない点は、個々の授業で質問して理解を深めてもらえればと思います。本講義は、薬物療法を行う上で重要な講義ばかりですので、さらに理解しやすい講義を行っていきたいと考えています。

科 目 名：臨床疫学（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：34　回収率：25.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.6	4.3	3.4	3.7	3.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント　　臨床疫学　担当教員

臨床医として必要な臨床論文を読むのの必要最低限の知識を得る、また診療改善のための病院データをまとめることや、臨床研究を行うための基礎となることを目的としています。そのため、座学のみでなくアクティブ・ラーニングとして論文の批判的吟味であるcritical readingがあり、教養からの統計の知識がある前提で行うSPSSによる疫学データ解析演習と、自ら学習する力と応用力が問われる内容となっています。臨床医となる場合は本分野も生涯学習を続けて下さい。

科 目 名：臨床検査学（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：106　回収率：77.9％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	4.2	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8	3.9

＊評価に対するコメント　　臨床検査学　担当教員

問８の総合評価で今年は3.9でした。科目内容では問６－問７に関して3.8－3.8でした。問６で示した難易度の検討、問７で示した意欲が高まるために引き続き配布資料の工夫と授業内容の充実、測定機器の写真や技術の紹介など授業方法の改善に取り組みたいと思います。また、Reverse-CPCを用いて臨床実習や研修における学生への実用的助力となるように努力いたします。

科 目 名：医療安全（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：123　回収数：110　回収率：89.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.5	4.3	3.9	3.6	3.9	4.0	3.9	3.9

＊評価に対するコメント　　医療安全　担当教員

2012年度から始まった医療安全の講義も４回目を終えました。毎年少しずつですが改善を加えてきたこともあり、学生の皆さんもよく学習してくれるようになりました。今後も医療情勢に合わせた内容を取り込み、改善していきたいと考えています。

科 目 名：医療概論４（医学科第４年後期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：111　回収率：81.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.4	4.3	4.0	3.6	4.0	4.0	4.1	4.1

＊評価に対するコメント　　医療概論４　担当教員

医療概論４では系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。カリキュラムに対しての疑問点が指摘されておりますが、来年度からのカリキュラム変更までの処置としてご理解ください。内容としては概ね良好な評価を頂きましたので、新カリキュラムへの移行の際の参考にさせていただきます。成績評価の試験も系統別講義とは形式を変え、記述式で行っておりますが、この形式に対する不満の声もなくなっており、一定の評価が得られたもの考えております。

科 目 名：医療情報学（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：44　回収率：32.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.3	4.0	3.3	3.7	3.7	3.6	3.7

＊評価に対するコメント　　医療情報学　担当教員

本講義は、１）医療情報に関する基礎理論、２）医療情報管理、３）医療経済、４）医療情報の社会医学への応用の４つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域である。本講義の開講が臨床実習前であり、病院情報管理システムや医療関連法規などについては理解しにくいかと思われる。しかし、医療情報の管理は個人情報保護の観点からもきわめて重要であり、臨床実習前に全領域について理解を深めておく必要がある。今後さらに学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義内容にするよう検討したい。

科 目 名：英語ＩＡ（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：56　回収率：93.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.5	4.6	4.1	3.1	3.6	3.5	3.4	3.8

＊評価に対するコメント　　英語ＩＡ　担当教員

全体的に授業での演習に熱心に取り組んでいました。最初は基礎力に差がありましたが、後半ではその差も改善している印象です。しかし、授業外で英語に触れる機会を増やせなかったことは教員の側からも改善すべき点であると考えています。来年度以降も英語力を高めることを期待しています。

科 目 名：英語ＩＢ（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：60　回収率：98.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	4.5	4.0	2.9	3.7	3.7	3.6	4.2

＊評価に対するコメント　　英語ＩＢ　担当教員

I would like to thank the first year nursing students for their encouraging comments. This year's class of nursing students impressed me with their hard work and enthusiasm. Learning English requires students to be actively involved in class activities and everyone did their utmost when participating in pair work and group work activities. There are many opportunities in the field of health care which can only be realized by acquiring English proficiency. I hope the first year nursing students will continue to work hard and improve their English skills as they move towards graduation.

科 目 名：形態機能学（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：59　回収率：98.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.7	3.7	2.7	3.5	3.3	3.8	4.1

＊評価に対するコメント　　形態機能学　担当教員

授業の満足度では4.1ポイントとなり一定の評価は得たと考えている。改善すべき点ではマークされた数が全ての項目で４以下なので早急な改善の必要性は少ないが、「量的に適切ではない」すなわち「多い」は例年指摘のでる項目で平成28年度も同様であった。これについては内容を減ずる事のない量的負担感の軽減の実践が今後の課題である。講義資料と問題集のネット配信について配布時期等の改善要求があったのでそれには応えていきたい。

科 目 名：対人関係論（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：54　回収率：88.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.1	4.8	3.8	2.6	3.7	4.1	4.2	4.4

＊評価に対するコメント　　対人関係論　担当教員

問８の総合評価は昨年度と変わらず4.4でした。自由記載から「看護師として働きたいという意欲が増した」「実習前にこの授業があればよかった」との意見があり、知識と実践が結びつけられていることがうかがえました。この授業は、演習を多く取り入れることで、一人ひとりが体験を通しながら対人関係の視点を広げていくことを大切にしています。ほとんどの学生は積極的に演習に参加していました。来年度の改善点として、出席の管理を厳密にしていこうと考えています。一部の学生から出欠確認の名簿をまわすだけでは不十分との意見がありました。出席点も評価に入れているため、この意見を真摯に受け止め、来年度に活かしていきます。

科 目 名：臨床心理学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：57　回収数：49　回収率：86.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.3	4.3	3.6	2.9	3.8	3.9	4.0	4.3

＊評価に対するコメント　　臨床心理学　担当教員

比較的評価の高い問７、問８については、授業中に、実際の心理テストや心理療法に取り組んでもらったことが良かったのかと考えます。今後も授業に取り入れたいと考えています。評価が低かった問１については、事前に予習をしやすいように資料や課題を提示するなど工夫したいと思います。

科 目 名：地域看護学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.7	3.8	3.6	3.7	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　地域看護学　担当教員

この科目で看護の奥深さを知った、看護職の道を志した原点があることに気づかされた、看護を学ぶ意欲を高めることができたなどの声が聞かれた。いろいろな学びをナイチンゲールやヘンダーソンなどの看護の概念と関連づけ看護の本質を探求する姿勢が伝わってきた。学生の熱心な姿に刺激を受け満足できる授業となるよう工夫してゆきたい。

科 目 名：健康教育論（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：60　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.4	3.8	3.5	3.7	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　健康教育論　担当教員

本年度は、講義の進め方に対して方針を変えました。その結果、講義内容に対する評価も向上したのではないかと思います。しかしながら、試験については覚えるべき内容の習得が不十分な者も少なくなかったことから、来年度はさらに講義の工夫を行い、多くの学生が十分納得できる講義にしたいと考えています。

科 目 名：代謝栄養学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：59　回収率：98.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.4	3.8	3.2	3.7	3.6	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　代謝栄養学　担当教員

各問のスコアは昨年とほぼ同じで、改善要望もなく、難易度など含め適切な内容であったと思われます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います

科 目 名：感染免疫学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：59　回収率：98.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.4	4.0	3.2	3.5	3.3	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　感染免疫学　担当教員

本年度は一部講師を変更しました。難易度に関するスコアが昨年度2.4→本年度3.3、満足度も昨年度3.1→本年度4.1と高くなっており、改善が反映された結果と考えます。もともと免疫学は複雑で、専門用語・略語も多く、理解するのが難しい学問ではありますが、次年度もより一層理解しやすい授業を目指したいと思います。

科 目 名：英語ⅡＡ（看護学科第２学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：58　回収数：58　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.7	4.4	4.3	3.5	3.6	3.4	3.2	3.4

＊評価に対するコメント　　英語ⅡＡ　担当教員

英語ⅡＡは、看護科第２学年の学生が履修する科目です。本年度から、学生の学習到達度の確認に重点を置いた形式にしました。ガイダンスで行ったアンケート調査結果より、英語力に個人差があるばかりでなく、英語を苦手と感じている学生もかなりの割合をしめていましたが、しっかり課題に取り組んでくれたという印象を持っています。

科 目 名：英語ⅡＢ（看護学科第２学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：58　回収数：56　回収率：96.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.1	3.8	3.2	3.7	3.7	3.4	3.8

＊評価に対するコメント　　英語ⅡＢ　担当教員

I am very fortunate to have many nurses in my life. My mother, younger sisters, sister－in－law, niece, cousin and two of my close friends are members of this noble profession. So I think I know what kind of people nurses are: they are intelligent, strong, responsible, active, hardworking, and kind. When you are a nurse, people know that they can trust you. Without nurses, we could not have healthcare, or even civilization. That’s why I feel honored to teach future nurses. I hope all of our students will have useful and fulfilling careers in nursing, and also happy lives with a good work/life balance.

科 目 名：成人看護学Ⅰ（看護学科第２学年通年／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：57　回収率：93.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.3	4.0	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1

＊評価に対するコメント　　成人看護学Ⅰ　担当教員

成人看護学Ⅰでは、学生の評価点のうち事前学習、復習・宿題がやや低い傾向にあります。どの科目でもいえることではありますが、成人看護学の範囲は広くの講義だけでは、すべてを教えることはできませんので、予習・復習をして自ら学ぶことが必要な科目です。予習・復習の機会をつくれるように、資料を早めに配付し事前学習の課題を出すことや、学習内容が確認できるような課題テストやミニレポートなど組み入れていくことも検討したいと思います。

科 目 名：看護理論（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：53　回収率：86.9％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
4.3	4.9	4.3	4.1	3.8	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント　　看護理論　担当教員

ピアエデュケーション形式で、看護理論を学習することを主とした科目構成にしており、学生各自が予習・プレゼンテーションの準備のための主体的学習を求めました。問８は3.9であり、効果的に学習できていたと考えます。グループ内での学習取り組み状況には差があり、個人の評価がしにくいのですが、自らが今後、看護実践するために必要な学習を行うと考えると、努力した学生にはご褒美があると考えます。それと、教員はちゃんと学んでいる学生とそうではない学生は判別できていると思いますよ。

科 目 名：薬理学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：59　回収数：51　回収率：86.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	4.2	3.6	2.7	3.3	3.1	3.5	3.6

＊評価に対するコメント　　薬理学　担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で様々な疾患や病態に使用される薬物について講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科 目 名：看護論理（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：49　回収率：80.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.4	4.7	4.4	4.2	3.9	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　看護論理　担当教員

紙上事例、DVD事例を用いて実践的に倫理的判断や意思決定について学習する科目であり、問８は4.1とある程度の評価を受けたと考えます。看護倫理、すなわちその人が看護を行う上で土台となる倫理感を確認しつつ、醸成する授業をめざしています。看護倫理に点数をつけることに対しては違和感と困難さを抱えていますが、成績評価のシステム上、致し方なくレポート点数等で評価しています。

科 目 名：精神看護学Ⅱ（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：53　回収率：88.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	4.2	4.0	3.4	3.8	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント　　精神看護学Ⅱ　担当教員

総合評価の問８に関しては、昨年度に比べ0.2ポイント上がりました。これは昨年度の反省から授業内容を整理し示せたことが要因の一つであると考えます。また、主体的な学習を心がけ、問１の平均点が上向く取り組みとしてアクティブ・ラーニングを今年度は取り入れたのですが、結果として中途半端に終わってしまいました。来年度に向け、学生の能動性を高められるような授業方法を再検討し、授業を組み立てていくことを目標にします。

科 目 名：母性看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：55　回収率：91.7％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.2	4.1	3.5	3.7	3.7	4.0	3.9

＊評価に対するコメント　　母性看護学　担当教員

全体の平均点で3.8点、昨年と比較して、0.1ポイント低下した。27年の評価をふまえ、予習・復習がしやすいように資料を作成し、また中間試験を実施した。しかし、予習・復習のポイントは変化なかった。さらなる工夫を検討するが、中間試験の実施は続ける予定である。授業範囲は広範であるが、特に次年度の母性看護学実習に関連するところは時間を割くようにしている。実習をふまえての学習であることを理解し、取り組んで頂きたい。

科 目 名：公衆衛生論（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：61　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.1	3.7	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6

＊評価に対するコメント　　公衆衛生論　担当教員

全体評価について不満を持つ学生がおりましたことは、講義の進行や評価基準に対する不満の表れであり、反省点とさせていただきます。定期試験において基準点に到達できていない者が多かったことは、試験勉強をプリントのみに依存しているためかと推察されましたので、講義方法についても次年度以降の改善に繋げられるようにします。

科 目 名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：59　回収率：96.7％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	4.3	4.0	3.8	3.8	4.0	3.9	3.8

＊評価に対するコメント　　高齢者看護学Ⅰ　担当教員

全項目３点～４点台であり、講義の目的は概ね達せられていると考える。出席確認の方法を常勤も・非常勤も統一して欲しいという意見があったが、LMSシステムで出席管理ができるようになればそれが可能になると思う。学習意欲が向上したかについて3.9点であり、前年度よりも高いのは、教育方法を工夫したことによる成果であると思う。

科 目 名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第２学年前期・後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：61　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）疾病論Ⅰ

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	4.1	3.9	3.0	3.7	3.7	4.2	4.2

＊評価結果（平均）疾病論Ⅱ

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	3.9	3.9	3.1	3.8	3.9	4.3	4.3

＊評価に対するコメント　　疾病論Ⅰ・Ⅱ　担当教員

本年度は、臨床側の配慮をいただき、系統だった講義順序に変更し、前期には中間テストも施行しました。全体の満足度のスコアが、昨年度3.8から本年度4.3と高くなっており、授業が楽しいというコメントも多くみられました。講義陣の努力と構成改善を反映する結果であると考えます。次年度も本年度同様の充実した内容を企画したいと思います。

科 目 名：小児看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：61　回収数：61　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	4.2	3.9	3.6	3.8	3.9	4.0	3.9

＊評価に対するコメント　　小児看護学　担当教員

講義企画に対する学生評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足のいく授業であったと考えます。授業資料や教科書の活用、試験問題などに関する意見があり、来年度以降の授業改善に取り組んでいきたいと思います。授業では教員の臨床での体験談を交え、小児看護の重要性や醍醐味、子どもの素晴らしさを伝えました。それに関しては高評価を受けましたので、今後も続けていきたいと思います。

科 目 名：看護研究Ⅰ・Ⅱ（看護学科第３学年通年／必修）
履修者数：55　配付数：55　回収数：41　回収率：74.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.4	4.1	3.8	3.4	3.4	3.6	3.8

＊評価に対するコメント　　看護研究Ⅰ・Ⅱ　担当教員

未知のテーマに挑戦していくことが看護研究ですから、苦労がある一方、知的好奇心をくすぐられる思いができます。皆さんのご苦労は実りのあるものだと思います。

論文クリティークで重要なのは、皆さんにとって参考にできる部分と反面教師となる点の吟味ですから、私の視点でレポートの赤ペン先生をすることは妥当でないと考えています。改善点として、研究種別クリテークシートを用いてグループでの論文クリティークを加えました。

科 目 名：卒業研究（看護学科第４学年通年／必修）
履修者数：55　配付数：55　回収数：39　回収率：70.9％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.6	4.7	4.6	4.3	4.2	3.9	3.9	4.2

＊評価に対するコメント　　卒業研究　担当教員

卒業研究は、学生が２～３人のグループで研究の動機から研究目的を見出し、研究方法を用いて調査等を行い、発表を行うという看護研究の一連の過程を学びます。学生の評価は全般的に高く、また卒業研究の集大成として看護研究発表会を終えたことで学生の満足感も得られていたと思います。この卒業研究での学びを今後の就職先で活用して、看護研究に取り組んでいただければと思います。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問１　事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問２　実習（演習）に毎回出席しましたか。 問３　実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問４　実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問５　実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問６　学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問７　指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問８　指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問９　実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10　事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11　実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12　実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13　課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14　実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15　実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16　安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17　学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総　合　評　価	問18　この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　　(普通)
②　あまりそう思わない　　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：基礎化学実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：127　配付数：112　回収数：92　回収率：82.1%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.8	4.4	4.2	4.3	4.1	3.9	3.9	3.9	4.2	3.9	3.7	3.2	3.4	4.0	4.2	3.9	3.6

＊評価に対するコメント　　基礎化学実習　担当教員

授業評価では、実験前のガイダンスの時間が長すぎて集中力が削がれる、分かりきっていることを説明するので説明が長すぎる、実習態度に対する注意に嫌味が多い等のコメントが寄せられました。以下、申し上げます。ガイダンスでは、実習は座学とは本質的に異なること（講義ではない）、特に基礎化学実習では危険な薬品や壊れやすいガラス器具・実験器具を取り扱うために、白衣の着衣の仕方を含めて十分に時間をかけて安全教育する必要があります。具体的には、なぜそれが危険なのかについての理由とその対策を、その都度説明しています。人によっては分かりきったことも含まれるかもしれませんが、安全対策は全員が確実に理解して実施できなければ意味がありません。したがって、分かりきっているので、説明を飛ばしてもよいということにはなりません。また、事前に予習して生体の中の化学反応と実習内容の関連性を理解した状態で実習に臨まれたのでしょうか。単に実習内容だけをこなせばよい、という意識を改めていただきたいと思います。さらに、今年度は実習後に廊下にペットボトルが放置されていたのが発見されましたが（初めてです）、モラルの問題だとは思いませんか。今後、皆さんは医師として高い意識で仕事をしなくてはなりません。その点を意識してください。最後に、寄せられたコメントの件数は例年の1/4〜1/3程度と大変少ないものでした。実習内容が妥当であったと判断された方が多かった結果かもしれませんが、皆さんの実習状況から判断すると、サイエンスや医学に関心を持っている方が例年に比べて少ないのではないかと感じさせられた学年でした。皆さんの今後の努力を期待します。

科 目 名：統計学実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：114　配付数：114　回収数：103　回収率：90.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.6	4.7	4.4	3.7	4.1	3.7	3.5	3.2	3.7	3.7	3.4	3.0	3.3	3.3	3.8	3.9	4.0	3.5

＊評価に対するコメント　　統計学実習　担当教員

「この実習に対する満足度」の評価は平均3.5でした。問12の難易度の適切性が低い評価です。易し過ぎるのか難し過ぎるのかがデータからはわかりませんが、改善すべき点であることに注意したいと思います。実習内容については、学ぶべき目的、意図、要点の説明が十分ではないとの意見が直接寄せられております。昨年の要望でありました、高学年で必要となる解析統計学の具体的な内容については、テキストにも反映させました。次年度は、３年生で行う生理学実習等のデータを使い実践的な統計解析の練習を行う予定です。

科 目 名：心理・コミュニケーション実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：113　配付数：113　回収数：95　回収率：84.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.7	4.3	4.1	4.4	4.1	4.3	4.1	4.0	4.1	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	4.1	4.1	4.0

＊評価に対するコメント　　心理・コミュニケーション実習　担当教員

昨年度より、実習の後半に、介護施設におけるユマニチュード実習を導入した。本年度は、現場での介護実習に先立ち、ユマニチュードの開発者であるジネスト先生に介護法を直接指導していただいた。その結果、全体の満足度は4.0と向上し、また実習全般の評価も3.9−4.3と改善した。だが、学生の受講態度（4.3）は例年より低下し、さらに授業評価のコメント欄でも仲間の学生の意識の低さについて批判的な意見が寄せられた。次年度は、医療に対する学生の意識の改善について検討してゆく必要があると思われる。

科 目 名：医療社会学実習（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：120　配付数：112　回収数：102　回収率：91.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.8	4.5	4.0	3.0	3.0	2.8	3.0	2.8	2.8	2.8	2.9	2.9	2.6	2.6	3.0	3.5	3.3	2.5

＊評価に対するコメント　　医療社会学実習　担当教員

医療社会学実習は、履修者自身が調査を計画し実施する実習ですので、他の実習などよりも、課外での能動的な活動が求められます。しかし、自由記述の内容をみると、実習の意図や目的を理解しないままに、実習に取り組んでいた履修生もいたことがわかります。ですので、来年度は、まず第一に実習の目的や内容を丁寧に説明することが必要だと考えています。

科 目 名：形態学実習Ⅱ（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：117　配付数：112　回収数：106　回収率：94.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.8	4.6	4.5	4.6	3.5	4.5	4.4	4.4	4.5	4.3	4.2	4.3	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6

＊評価に対するコメント　　形態学実習Ⅱ　担当教員

全般的には例年通りの評価を得ていると考えている。教員の人数が少ないとの不満が多少目につく。学生の人数が増えている中で、教員が限られているので、仕方ない面もある。ＡＶ教材の充実も含めて努力していくが、学生自身の努力も期待する。教科書等を参照すれば簡単に解決できる質問も多いので。

科 目 名：衛生・公衆衛生実習（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：133　回収数：28　回収率：21.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.6	4.5	4.5	4.5	4.2	4.1	4.5	4.3	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.5	4.5	4.5

＊評価に対するコメント　　衛生・公衆衛生実習　担当教員

グループ単位で地域・産業保健や健康管理などの社会活動現場の訪問、健康関連情報の有用性検証、環境測定や実験研究など別個の多様な実習テーマに取り組み、発表会にて成果を分ち合う。少人数の教員が複数のグループを担当する為、それぞれに割ける時間的制約がある事をお許し願いたい。全ての項目が４評価を上回っており興味を持ってもらえた事と思う。今後も地域医療に役立つ多様な知識と技術を身に着けられるように努力したい。

科 目 名：法医学実習（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：102　回収率：75.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.4	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　法医学実習　担当教員

法医学講義の時間数が不足している為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状である。学生サイドからは、骨実習と検屍（検案）の講義が好評であった。授業評価の評点も概ね４点以上であり、興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科 目 名：自然科学実験（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：57　回収数：55　回収率：96.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.9	4.6	4.2	3.2	3.8	3.7	3.6	3.9	4.0	3.7	3.0	2.7	3.1	3.9	4.2	3.5	3.4

＊評価に対するコメント　　自然科学実験　担当教員

総合評価が0.3低下した。配布資料、指導方法、事前説明などは評価されているが、課題量や難易度はやや低評価となった。「興味ある内容であった」が、「時間が長すぎる」「課題が多い」「課題締切日までの日数が少ない」などのコメントがあった。安全性や正確さをもって取り組んでもらうためには、実習では時間延長となることがある。事前予告で、実習後のスケジュール調整を学生に期待したい。課題量と締切日に関しては、他の実習を配慮して柔軟に対応したい。

科 目 名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：62　配付数：57　回収数：54　回収率：94.7％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.7	4.8	4.3	4.5	4.5	3.9	4.6	4.6	4.0	4.1	3.3	4.4	4.5	4.5	3.9	4.4

＊評価に対するコメント　　基礎看護技術学Ⅱ　担当教員

この科目は演習する看護技術ごとに事前学習および事後学習を課しています。週２回の講義ですので時間的にハードなスケジュールです。学生の皆さんは真摯に学習に取り組み学習目標を概ね達成できました。レポートの量・内容に関する点数が低いですが、必要な学習と理解されていたと考えます。演習時のプライバシーに関する自由記載がありました。要望等がありましたら、是非直接伝えていただき一緒に考えたいと思います。

科 目 名：生体観察実習（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：59　回収率：98.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.8	4.6	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.3	3.9	3.9	4.0	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4

＊評価に対するコメント　　生体観察実習　担当教員

生体観察実習は満足度が4.4ポイントと比較的高得点を得る事ができ、コーディネーターとしては満足をしている。個別の評価として「技術の取得」と「難易度」が3.9とやや低かったが、本実習は技術の取得を目的としていない事、考える姿勢を持たせる為に難易度はやや高めが適切である事から２項目の改変が急務とは考えていない。成績評価について平成27年度より厳密化を試みている。今後もより適切な評価法を実施していきたい。

科 目 名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第３学年後期／必修）
履修者数：55　配付数：55　回収数：31　回収率：56.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.9	4.8	4.0	4.4	4.1	3.9	3.0	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.0	3.9	4.3	4.0	4.0

＊評価に対するコメント　　実践看護技術学Ⅱ　担当教員

実践看護技術学Ⅱでは、学生の誰しもが将来一度は出会うがん患者事例（乳がん）について、臨床の場面に近い状況で学んだ知識・技術を統合し、援助に活用できることを目指しました。一連の教材を実習要項としてまとめた今年度の工夫は好評価を得ました。一方で、がん患者の治療のコースとライフサイクルに渡り求められる看護技術の修得は、難易度が高く感じられるようです。さらなる効率的学習時間の工夫と教材の洗練に取り組みたいと思います。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実　習　計　画	問１　実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問２　指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実　習　内　容	問３　実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問４　実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問５　指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問６　教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問７　受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問８　カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実　習　環　境	問９　教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものでった。 問10　安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総　合　評　価	問11　実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12　この実習は全体として満足できるものであった。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　　(普通)
②　あまりそう思わない　　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：基礎看護学実習Ⅱ（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：60　回収数：56　回収率：93.3％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.2	3.5	3.7	3.4	3.9	3.8	4.0	4.2	3.9	4.2	4.1	4.0

＊評価に対するコメント　　基礎看護学実習Ⅱ　担当教員

この実習は初めて受け持ち患者を担当し看護実践を行う実習です。いろいろな意味でこれまでの学びがすべて発揮される実習です。学生の皆さんは緊張や不安がある中、よく努力していました。実習の指導は患者個々の状況や学生の学習状況により、学習方法や優先順位が異なる場合があることをガイダンスで説明しました。教員間の連携が取れていないとの意見がありました。自由記載からは具体的なことは把握できませんが、臨地実習指導者も含め教員間の連携に関してはより一層取り組んでいきたいと思います。

教　員　の　異　動

平成29年５月31日	辞職	医学部脳神経外科学講座	准教授	露　口　尚　弘
平成29年７月１日	昇任	病院手術部	講　師	黒　澤　　温
平成29年７月20日	昇任	病院集中治療部	講　師	川　田　大　輔
平成29年７月20日	昇任	病院周産母子センター	講　師	岡　本　年　男
平成29年７月20日	配置換	医学部救急医学講座	講　師	丹　保　亜希仁
平成29年９月１日	採用	内科学講座（病態代謝内科学分野）	教　授	太　田　嗣　人
平成29年９月14日	採用	眼科学講座	講　師	宋　　勇　錫
平成29年９月14日	昇任	病院第一内科	講　師	中　川　直　樹
平成29年10月１日	採用	内科学講座（病態代謝内科学分野）	准教授	滝　山　由　美

今後のスケジュール

11月５日（日）	本学記念日
11月21日（火）・22日（水）・24日（金）	Ｂ型肝炎ワクチン効果測定等採血日 （医学科第４学年・看護学科第２学年対象）
12月７日（木）～15日（金）	医学科第４学年後期試験週
12月14日（木）・15日（金）	医学科第３学年後期試験週

冬季休業

医学科第１学年	12月18日（月）～１月11日（木）
看護学科第１学年	12月18日（月）～１月10日（水）
医学科第２学年，看護学科第２学年	12月18日（月）～１月12日（金）
医学科第３学年	12月18日（月）～１月５日（金）
看護学科第３学年	12月11日（月）～１月５日（金）
医学科第４学年	12月18日（月）～１月４日（木）
看護学科第４学年	12月11日（月）～１月３日（水）
医学科第５学年	12月25日（月）～１月５日（金）